

夏の思い出 絵で工作で

松山児童ら作品展

幼児から中学生までの絵画や工作など約700点を集めた「第52回東雲児童美術展」が18日、松山市堀之内の県美術館で始まった。20日まで。

東雲児童美術教室（武智学代表）が、子

どもたちの日ごろの活動成果を披露しようと2年に1度開催。市内の公民館や幼稚園などで指導を受けている約210人が出展した。

夏祭り、虫捕りといった夏の思い出、学校生活、菜の花の風景など、多彩な題材を生き生きと描いた絵画がずらり。新聞紙の畑に薄い手芸用紙や毛糸で作

った野菜を貼り付け、めくるとアリやモグラのすみかが現れる立体的な絵画もある。



子どもたちの個性あふれる絵画や工作が並ぶ美術展

工作では、箱の中に紙粘土の一つ目小僧やろくろ首が並ぶ小さなお化け屋敷、ナイロン袋を使った動物などに取り組んでおり、一人一人の個性や工夫が光る。

来場した児童は、自分の作品の前で家族に写真を撮ってもらったり、友達の前で作品を探したりしていた。

（花本和久）